

2025 年卒
Vol. 03

1月1日時点の就職意識調査

キャリアタス就活 学生モニター2025 調査結果 (2024年1月発行)

年が変わり、就職活動本番が近づいてきた。就活解禁を2カ月後に控えた1月1日時点で、2025年卒学生の準備はどの程度進んでいるだろうか。キャリアタス就活・学生モニターを対象に、就職意識および就職活動の準備状況などを尋ねた。

1. 現在の志望業界

- 志望業界が「明確に決まっている」39.5%。前年同期調査(35.2%)を上回る
- 志望業界1位「インターネットサービス」、2位「情報処理・ソフトウェア」。IT人気続く

2. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

- 複数選択では「給与・待遇が良い」「将来性」にポイントが集中(45.2%、44.3%)
- 最も重視する点では「職場の雰囲気が良い」が最多

3. 就職活動に関する情報の入手先

- 「就職情報サイト」が最多(91.7%)。「各企業のホームページ(採用サイト)」が続く
- 「WEB上のクチコミ情報」の増加が目立つ(15.4%→23.5%)

4. インターンシップ等(※)の参加状況と参加後のアプローチ

- 参加経験がある学生は9割超(94.3%)。参加社数は平均10.7社
- 「今後参加したい」70.4%。参加方針は「志望業界に絞って参加」が最多
- 参加後は「限定セミナー」「早期選考」の案内が多い。「個別面談」の案内が年々増加

5. 1月1日時点の本選考受験状況と内定状況

- 「本選考を受けた」54.7%。前年同期(51.1%)に続き半数超え
- 「内定を得た」23.6%。前年同期(14.9%)より8.7ポイント上昇。1月に2割台は初めて

6. 志望企業との対面での接点

- 第一志望企業との対面経験がある学生は6割強(63.6%)。2年連続で大きく増加
- 本選考の前に、対面での接点が必要と考える学生は8割に上る

7. 就職活動解禁までの準備の進め方・方針

- 「早期選考を受けたい」67.3%、「志望業界・志望企業への理解を深めたい」47.0%の順

※「インターンシップ」に限定せず、1日以内のプログラム等も含めて尋ねた

調査概要

調査対象：2025年3月に卒業予定の大学3年生(理系は大学院修士課程1年生含む)
回答者数：1,033人(文系男子264人、文系女子361人、理系男子261人、理系女子147人)
調査方法：インターネット調査法
調査期間：2024年1月1日～8日
サンプリング：キャリアタス就活 学生モニター2025

1. 現在の志望業界

1月1日時点での志望業界の決定状況を尋ねたところ、「明確に決まっている」という学生が39.5%で、前年同期調査(35.2%)を上回った。志望業界確定のタイミングが早まっている様子が見て取れる。「なんとなく決まっている」(38.0%)と合わせると、7割強が志望する業界があると回答。また「決まっていない」(22.5%)は、11月後半に実施した前回調査(21.1%)から微増。

「なんとなく決まっている」との回答も含め、志望業界のある学生に具体的な業界を尋ねた(40業界から5つまで選択)。最も多いのは「情報・インターネットサービス」(19.6%)で、2位は「情報処理・ソフトウェア」(17.5%)と、今年も引き続きIT業界に人気が集まっている。理系よりも文系学生において順位が高く、文系が目指す就職先として位置付けられていることがわかる。

属性別に上位業界を確認すると、文系は男女とも「銀行」が1位。理系学生は製造業が上位にきており、理系男子は「電子・電機」が最多、理系女子は「素材・化学」が1位。

< 志望業界の決定状況 >

	(%)						
	全 体	11月調査	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
明確に決まっている	39.5	35.8	35.2	36.7	31.3	49.8	46.3
なんとなく決まっている	38.0	43.1	42.4	34.8	41.0	36.8	38.8
決まっていない	22.5	21.1	22.4	28.4	27.7	13.4	15.0

< 志望業界 (上位 15 業界) >

		※5つまで選択 (%)								
	全 体	文系男子		文系女子		理系男子		理系女子		
1	情報・インターネットサービス①	19.6	銀行	29.1	銀行	19.9	電子・電機	21.2	素材・化学	36.8
2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト②	17.5	情報・インターネットサービス	23.3	マスコミ	18.8	素材・化学	20.8	医薬品・医療関連・化粧品	36.0
3	素材・化学③	15.7	調査・コンサルタント	20.1	情報・インターネットサービス	16.9	建設・住宅・不動産	19.5	水産・食品	28.0
4	水産・食品④	14.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	18.5	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	15.7	情報・インターネットサービス	19.0	情報・インターネットサービス	20.8
5	銀行⑧	14.6	商社(総合)	16.9	商社(専門)	13.0	自動車・輸送用機器	17.7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	20.0
6	調査・コンサルタント⑦	14.4	商社(専門)	15.3	教育		情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	17.3	電子・電機	16.8
7	建設・住宅・不動産⑥	13.2	官公庁・団体	13.8	水産・食品	12.6	調査・コンサルタント	15.5	精密機器・医療用機器	15.2
8	電子・電機⑨	12.6	保険	12.7	官公庁・団体	11.1	機械・プラントエンジニアリング		調査・コンサルタント	12.8
9	医薬品・医療関連・化粧品⑭	11.4	運輸・倉庫	12.2	商社(総合)	10.3	エネルギー	14.2	建設・住宅・不動産	12.0
10	マスコミ④	10.9	水産・食品	11.1	人材サービス・人材紹介・人材派遣		水産・食品	13.3	エネルギー	11.2
11	官公庁・団体⑩	10.1	建設・住宅・不動産		保険		10.0	精密機器・医療用機器	11.5	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス
	エネルギー⑪		マスコミ	ホテル・旅行	医薬品・医療関連・化粧品	10.6		通信関連	9.6	
13	商社(専門)⑬	9.7	人材サービス・人材紹介・人材派遣	10.6	調査・コンサルタント	10.0	通信関連	7.1	官公庁・団体	8.8
14	商社(総合)⑪	9.4	信販・クレジット・ファイナンス		建設・住宅・不動産		官公庁・団体	6.6	自動車・輸送用機器	7.2
15	自動車・輸送用機器⑬	9.2	電子・電機	運輸・倉庫	商社(総合)	機械・プラントエンジニアリング				
			エネルギー	9.0						

※○の中の数字は前年同期調査の全体順位

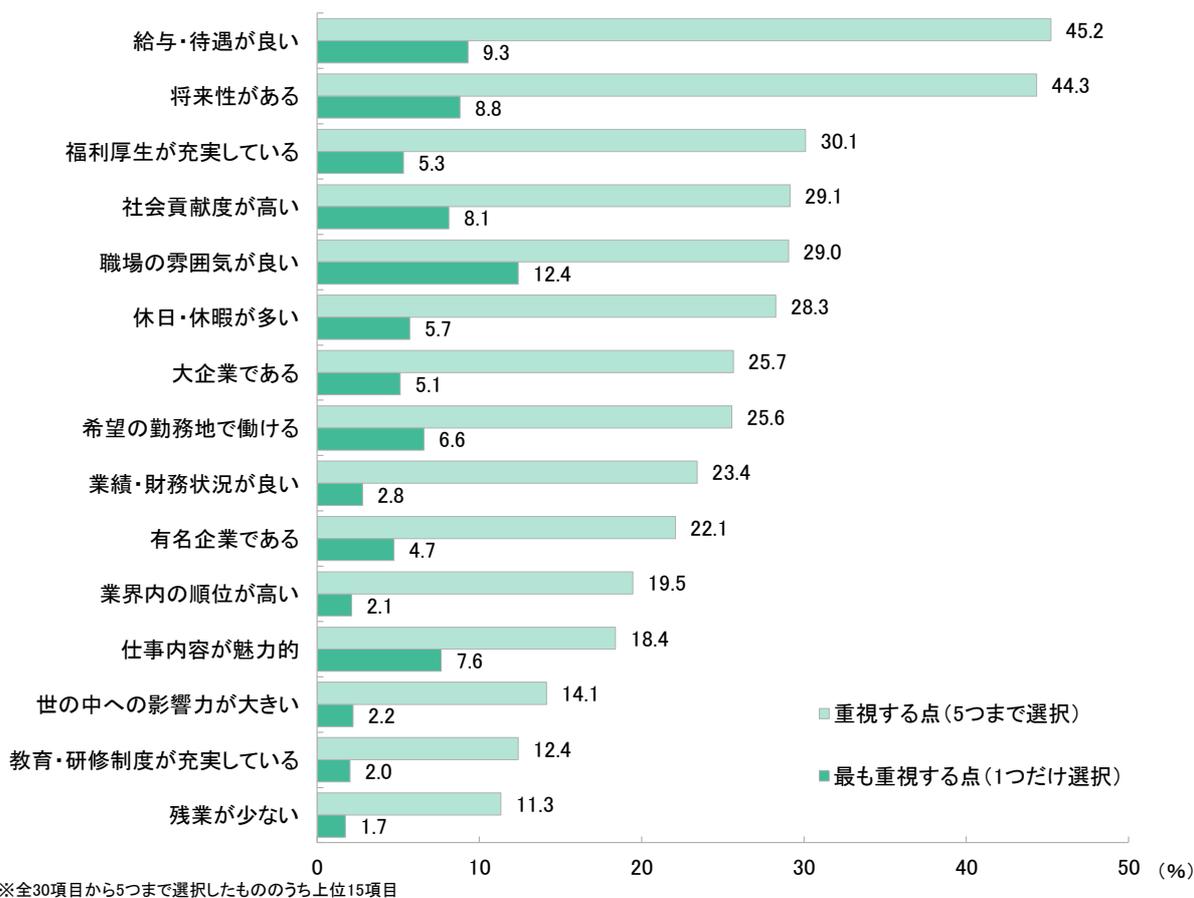
2. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

就職先企業を選ぶ際に重視する点を30項目の選択肢の中から5つまで選んでもらい、さらに最もあてはまるものを1つだけ選んでもらった。

まず、複数選択で最も多くの学生が選んだのは「給与・待遇が良い」(45.2%)。僅差で「将来性がある」(44.3%)が続く。いずれも4割を超えポイントが集中している。

一方、最も重視する点を見ると、「職場の雰囲気が良い」が最多(12.4%)。好条件の企業を希望しながらも、実際に働く上での職場環境に重点を置いて企業選びをしようと考えているようだ。

<就職先企業を選ぶ際に重視する点>

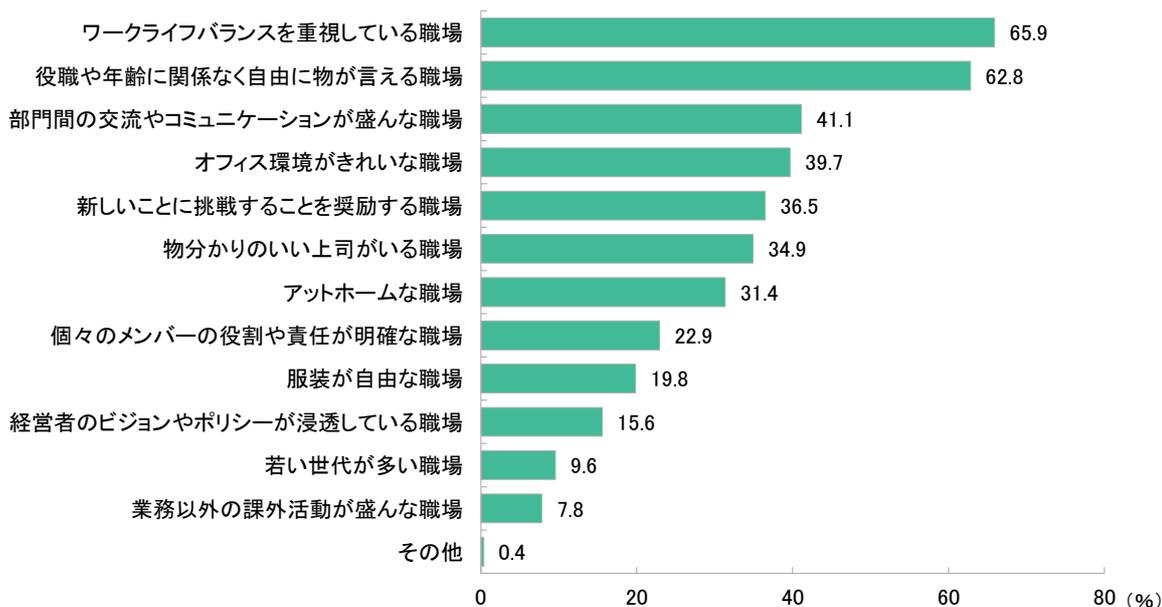


■企業を選ぶ際に重視したい点

- 職場の環境が良ければ、少し辛いことでも続けていけそうな気がする。 <理系女子>
- 有名企業であれば、給与的な面、業績面、社会的地位などが確保されていると考える。 <文系男子>
- 周囲に尊敬できる人、目標となれる人が多い職場がいい。 <理系男子>
- 今よりも豊かな生活を送りたい。奨学金の返済で将来の金銭面が心配。 <文系女子>
- 不安定な現代社会においても、続いていく体力と対応力がある企業がいいです。 <文系男子>
- やりがいがあって、自分がワクワクする仕事をし続けたい。成長したい。 <文系女子>
- 社会全体に影響力のある仕事を行い、責任とやりがいを感じたい。 <文系男子>
- 福利厚生の充実=従業員を大切にしていると感じるから、この会社のために頑張ろうと思える。 <文系女子>
- 将来転職したいとき、自由に転職先を選ぶことができるスキルを身につけたい。 <理系男子>
- 地元で働き貢献したいという思いが強い。 <文系女子>

続いて、どのような企業を「雰囲気の良い職場」だと考えているのかを重ねて尋ねた。あてはまるものをすべて選んでもらったところ、最も多いのは「ワークライフバランスを重視している職場」(65.9%)。僅差で「役職や年齢に関係なく自由に物が言える職場」(62.8%)、次いで「部門間の交流やコミュニケーションが盛んな職場」(41.1%)と続き、人間関係の良さを重視する学生が多いことがわかる。企業研究を通じて、学生が職場環境を具体的にイメージできるように、情報提供することが求められる。

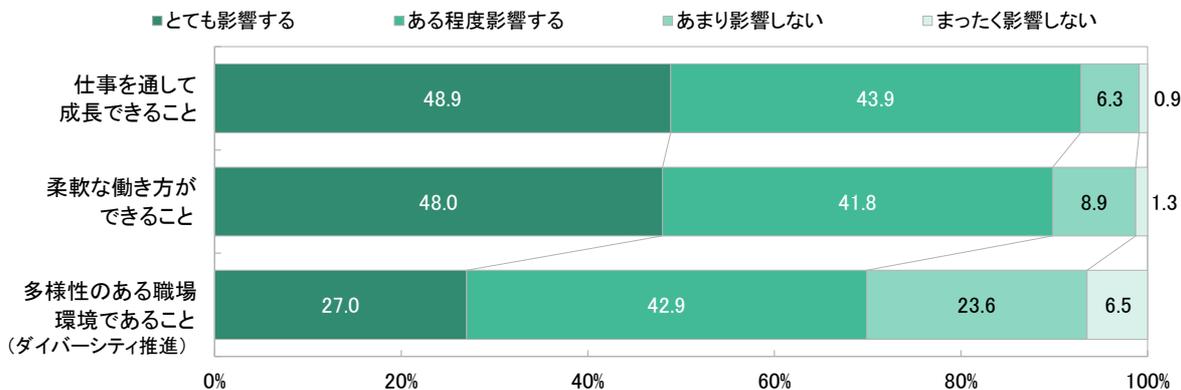
< 雰囲気が良いと思える職場 >



就職先企業選びに、下記の3つの項目がどの程度影響するかを尋ねた。「仕事を通して成長できること」と「柔軟な働き方ができること」は、半数近い学生が「とても影響する」と回答(48.9%、48.0%)。「ある程度影響する」を合わせると9割前後が「影響する」との考えを示した。

「多様性のある職場環境であること」は、3項目の中では一番ポイントが低いものの、「影響する」と回答した学生は7割近くに上り(計69.9%)、いずれの項目も企業を選ぶ上で重要な指標と捉えられていることがわかる。

< 就職先企業選びへの影響度合い >



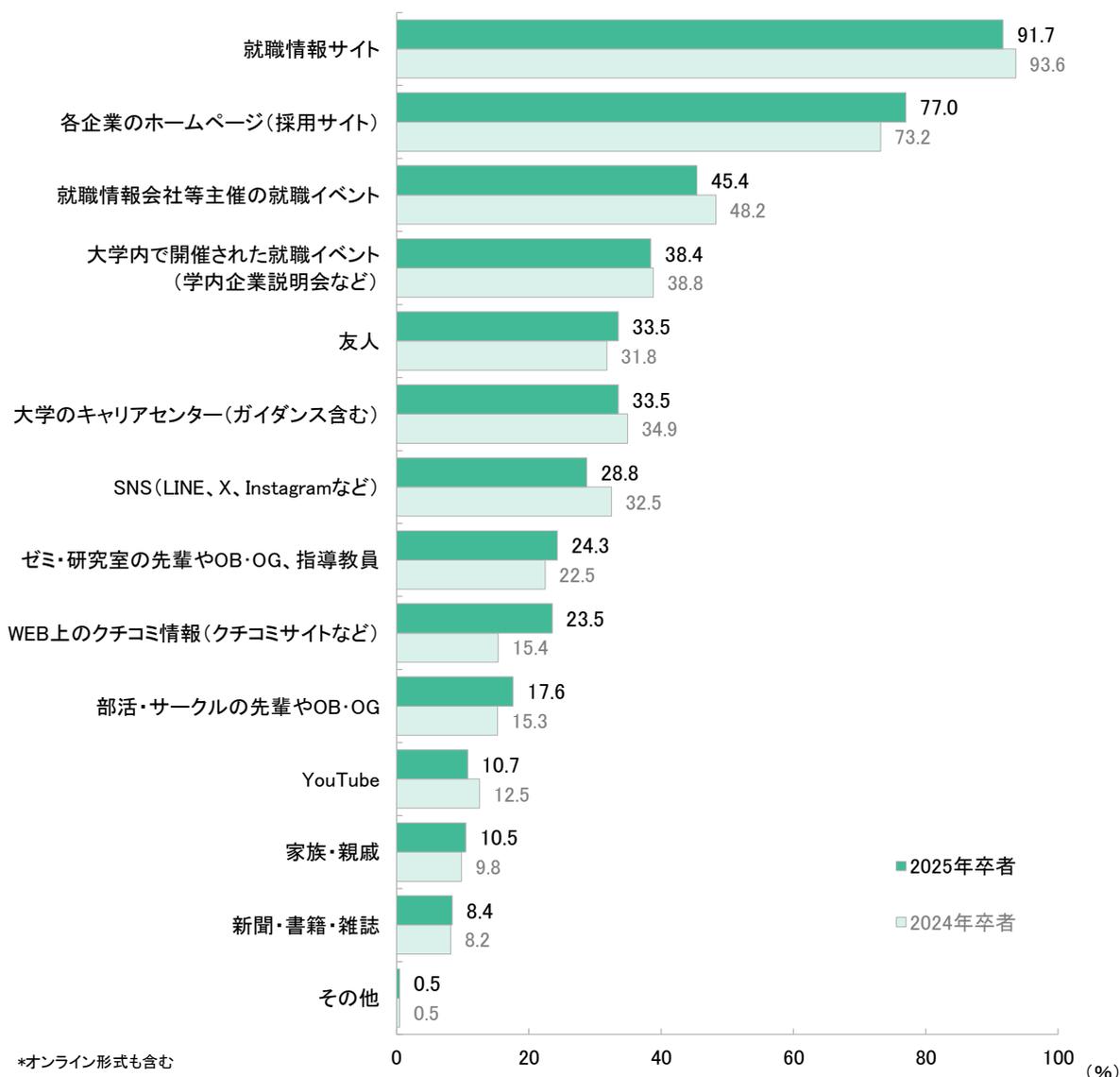
3. 就職活動に関する情報の入手先

現時点で就職活動に関する情報をどこから入手しているのかを尋ねたところ、最も多いのは「就職情報サイト」で、9割を超える(91.7%)。次いで「各企業のホームページ(採用サイト)」(77.0%)が続く。各企業のホームページは前年より増加しており(73.2%→77.0%)、個別企業の情報収集や企業研究に進むタイミングが早まっているようだ。

また、前年よりポイント上げた項目の中では、「WEB上のクチコミ情報(クチコミサイトなど)」の増加が目立つ(15.4%→23.5%)。

今年は「友人」「ゼミ・研究室の先輩やOB・OG、指導教員」「部活・サークルの先輩やOB・OG」といった、身近な人間関係からの情報入手も微増している。

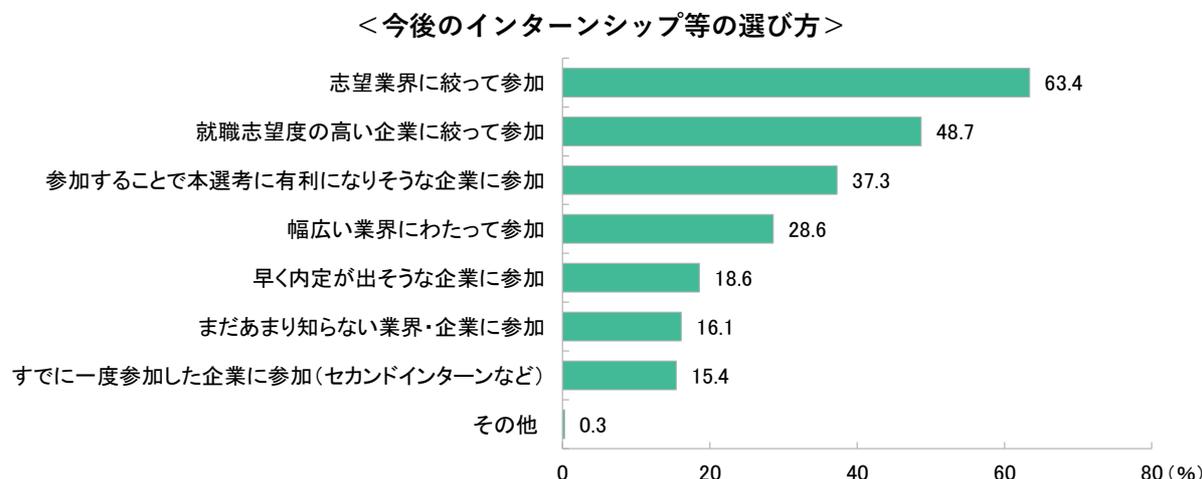
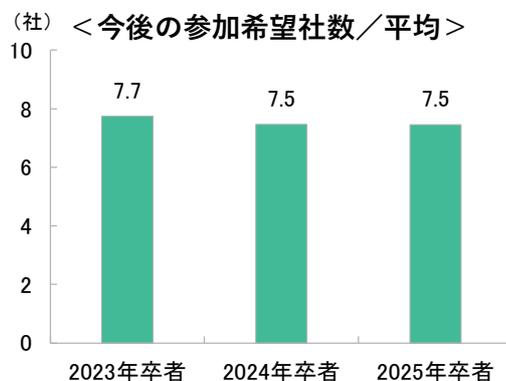
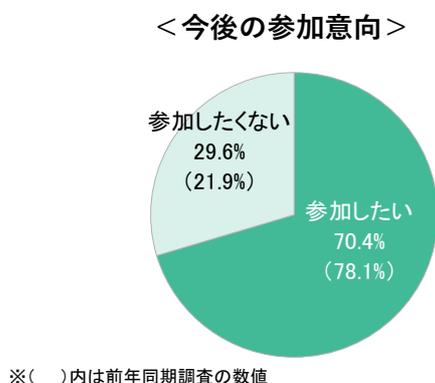
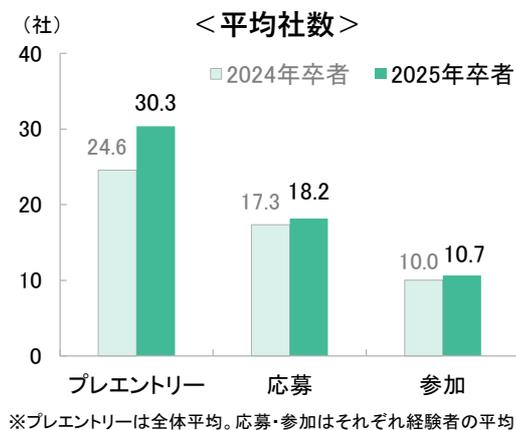
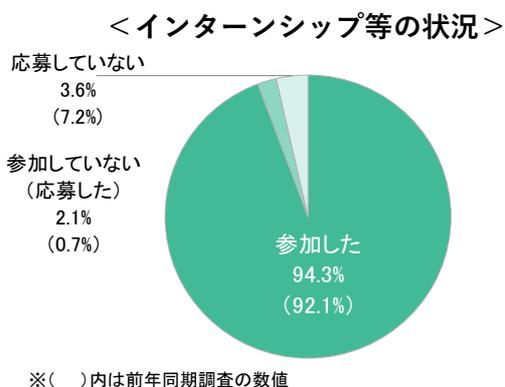
<就職活動に関する情報の入手先>



4. インターンシップ等の参加状況と参加後のアプローチ

インターンシップ等のプログラムへの参加状況を尋ねたところ、1月の調査時点で参加経験がある学生はモニター全体の94.3%。前年同期調査より2.2ポイント増加した(いずれも「インターンシップ」に限らず、1日以内のプログラム等も含めて調査)。プログラムの実施日数によらず参加社数を算出すると、一人当たりの平均は10.7社で前年と同水準。プレエントリー社数は増加したが(平均24.6社→30.3社)、その後の応募社数や参加社数は前年並み。

今後については「参加したい」という回答が70.4%。前年同期(78.1%)より減ったものの、7割が参加に意欲的。今後の参加方針を尋ねると「志望業界に絞って参加」が最多(63.4%)。先に見たように業界が定まっている学生も多く、その中で新しい企業を探そうという姿勢がうかがえる。

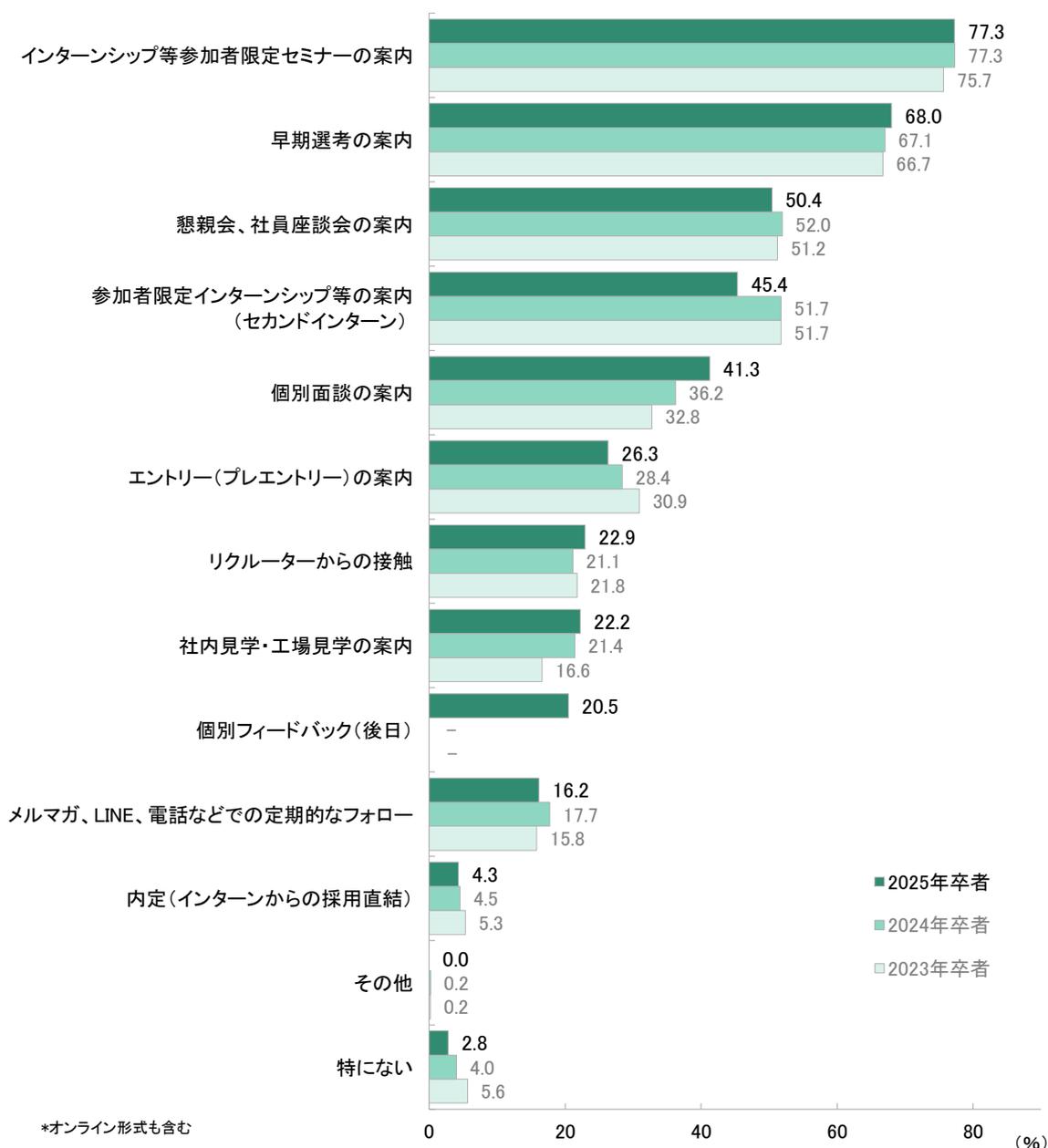


インターンシップ等への参加経験がある学生(全体の94.3%)のうち、参加後に企業からフォローやアプローチを受けた学生は9割強に上る(97.2%)。ほとんどが何らかのアプローチを受けている。

どのようなフォローやアプローチを受けたかを見ると、最も多いのは「インターンシップ等参加者限定セミナーの案内」(77.3%)で、プログラム参加後に改めて自社をよく知ってもらう機会を用意する企業が多いことがうかがえる。次いで、「早期選考の案内」(68.0%)が続き、今年も約7割がプログラム参加企業から早くも本選考の案内を受けた経験を持つ。

上位項目に大きな変化が見られない中で、「個別面談の案内」が年々増加しているのが目を引く。3カ年で8.5ポイント増加した(32.8%→41.3%)。個別にフォローすることで、採用選考へと繋げようという動きが強まっているようだ。

<インターンシップ等の参加後に企業から受けたアプローチ>



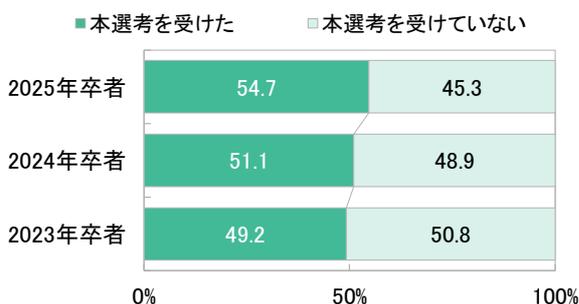
5. 1月1日時点の本選考受験状況と内定状況

本選考(採用選考)の受験状況を尋ねた。筆記試験や面接など「本選考を受けた」という回答が54.7%に上り、前年(51.1%)に引き続き回答者の過半数を占めた。この数字は年々上昇している。

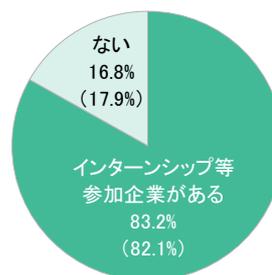
本選考受験経験者を分母とした受験社数の平均は4.0社。前年(2.8社)より1.2社増加。本選考受験企業の中にインターンシップ等参加企業があると答えた学生は8割を超え(83.2%)、早期選考へとつながるケースが多いことがこのデータからも読み取れる。

文理や男女の属性による大きな差は見られないが、文系学生の方が理系学生よりも受験社数がやや多い。

<1月1日現在の本選考の受験有無>



<うち、インターンシップ等参加企業の有無>

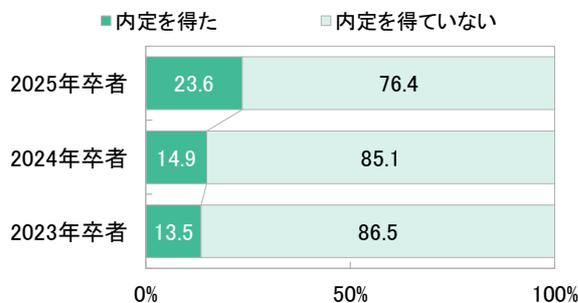


※()内は前年同期調査の数値

	全体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
本選考を受けた	54.7%	51.1%	58.0%	52.6%	53.3%	56.5%
選考受験社数(平均)	4.0社	2.8社	4.9社	3.9社	3.2社	3.6社
うち、インターンシップ等参加社数(平均)	2.2社	1.7社	2.5社	2.1社	1.9社	2.1社

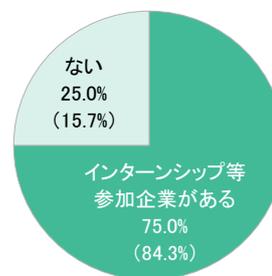
内定状況については、「内定を得た」との回答が23.6%。前年同期(14.9%)より8.7ポイント上昇し、1月の内定率としては初めて2割を超えた。文理男女のいずれも2割台を示すなど、属性によらず早期化が進行している様子が表れている。インターンシップ等参加企業から内定を得た学生が大半を占めるものの(75.0%)、そうでない学生が前年より10ポイント近く増加(15.7%→25.0%)。インターンシップ等への参加に関わらず、本選考時期を早める企業も増えていると思われる。

<1月1日現在の内定の有無>



*「内定」には、内々定を含む

<うち、インターンシップ等参加企業の有無>



※()内は前年同期調査の数値

	全体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定を得た	23.6%	14.9%	25.4%	22.2%	24.9%	21.8%
内定社数(平均)	1.4社	1.4社	1.3社	1.4社	1.4社	1.5社
うち、インターンシップ等参加社数(平均)	0.9社	1.1社	0.9社	1.0社	0.9社	1.1社

■本選考受験学生の声

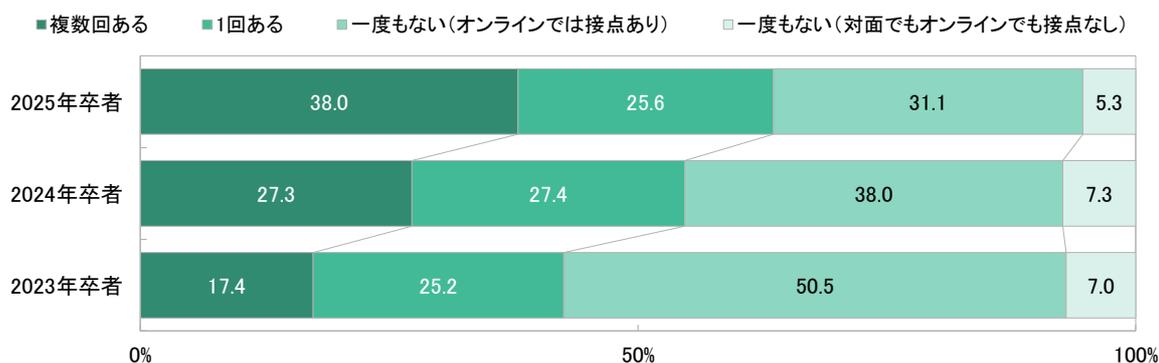
- 本選考はインターンシップの事前選考とはまた違う難しさがあると感じた。 <理系女子>
- 大手を志望している身として、現在受けている早期選考で内定が出なければ就職活動自体かなり厳しいものになり、精神的な焦りが出てくると思う。 <文系女子>
- 就職活動の早期化が進みすぎて院生には厳しくなっている。 <理系男子>
- 面接の通過率が低いのが心配です。 <文系男子>
- 時間を節約するために、選考に通過する可能性がほぼ無い企業を見分けられるようにになりたい。 <文系男子>
- この時期に頑張れるか頑張れないかが就活に大きく左右してきそうな気がしている。 <文系男子>
- 早期内定をもらえても、他の志望企業が選考を開始しないので、内定を承諾すべきなのかの判断材料が揃わないのが大変だと感じた。 <文系女子>

6. 志望企業との対面での接点

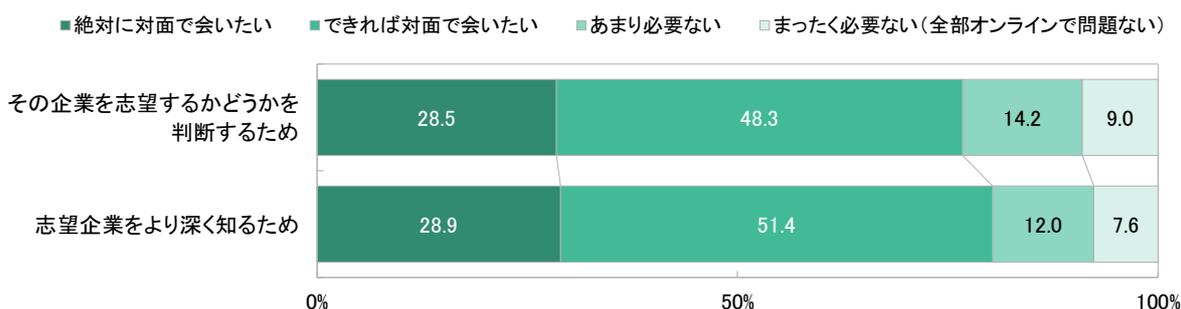
インターンシップやイベントなどで、現時点での第一志望企業と対面で接触した経験がある学生は、「複数回ある」「1回ある」合わせて6割強(計63.6%)。前年同期調査(計54.7%)より8.9ポイント増加した。特に「複数回ある」が、2年連続で10ポイント前後の伸びを示した(17.4%→27.3%→38.0%)。対面でこそ伝わりやすい情報もあるため、企業が学生と直接会う機会を意識的に増やしている様子がうかがえる。

一方、本選考が始まるまでに企業と対面での接点が必要かどうかを、2つの目的に分けて尋ねた。「その企業を志望するかどうかを判断するため」では、「絶対に対面で会いたい」(28.5%)、「できれば対面で会いたい」(48.3%)と、7割強が対面での接点が必要と回答(計76.8%)。「志望企業をより深く知るため」ではより高く、8割を超える(計80.3%)。企業理解を深めるためにも、選考が始まる前に直接会う機会を求める学生が多いようだ。

<第一志望企業との対面での接触経験>



<本選考前までの対面接点の必要性>



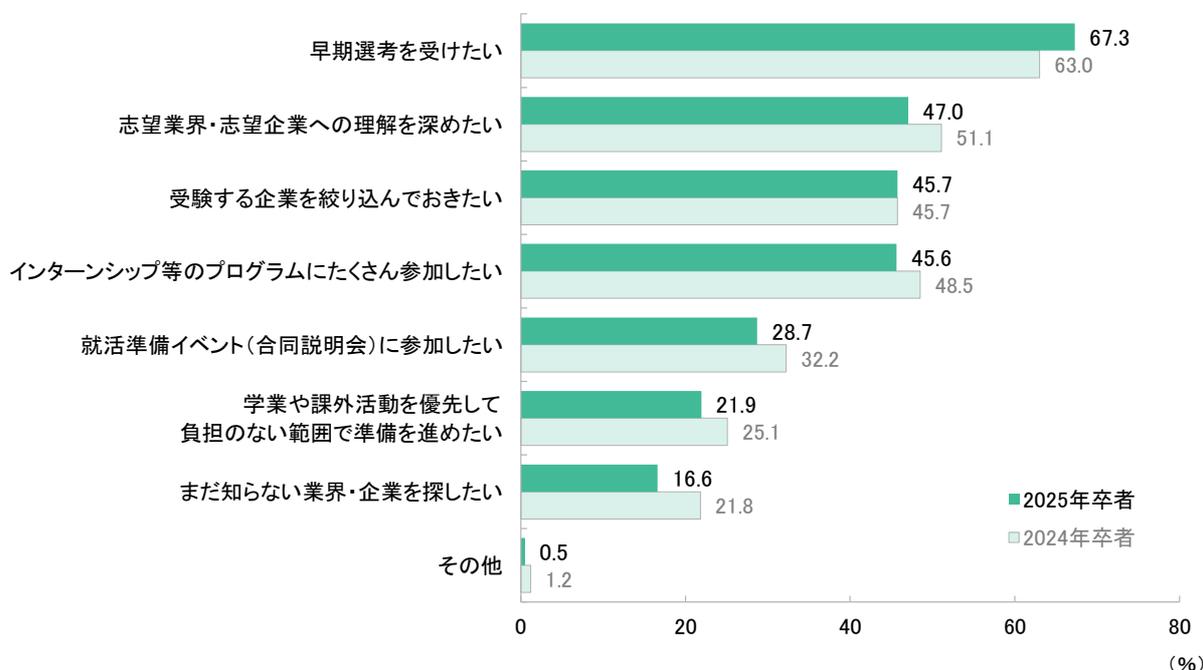
7. 就職活動解禁までの準備の進め方・方針

3月の就職活動解禁までに、学生はどのように準備を進めようと考えているのだろうか。最も多いのは「早期選考を受けたい」で、6割強の学生が選択した(67.3%)。政府が定める選考解禁(6月1日)はまだ先だが、選考経験を積んでおきたいと考える学生が多いことがわかる。中には本命企業の選考が始まっているという学生もいるようだ。

次いで、「志望業界・志望企業への理解を深めたい」(47.0%)が続き、「受験する企業を絞り込んでおきたい」(45.7%)、「インターンシップ等にたくさん参加したい」(45.6%)までが4割を超える。

意中の企業の内定獲得に向け準備に取り組む一方で、「就活準備イベント(合同説明会)に参加したい」(28.7%)、「まだ知らない業界・企業を探したい」(16.6%)など、就職活動が本格化する前にもっと多くの企業に出会いたいと考える学生も一定数見られる。

<3月の就職活動解禁までの準備の進め方>



■就活解禁までの進め方・方針

- まだ業界を絞りきれておらず、多くの企業のイベントやインターンシップに参加して、興味のある企業を探したい。 <文系男子>
- そろそろどんな方向がいいかは定めたい。エントリーシートも準備したい。 <文系女子>
- インターンシップや就活イベントには可能な限り参加しておき、早期選考を受けることで早く1つ目の内定を取りたい。 <理系男子>
- ある程度さまざまな業界を見てきたので、今後はより志望する企業の優先順位を決めるために、しっかりと企業研究を行い、選考に備えたい。 <理系女子>
- これまでインターンシップに参加した企業から志望する会社を選び、面接対策などを進めたい。 <文系男子>
- 早期選考を通して経験を積みながら、志望する企業も増やしたい。 <文系女子>
- 内定をいただいているが、そこよりもっといい企業を中心にイベントに参加していく予定。 <文系男子>
- 一部では希望職種の本選考が始まっており、一刻も早く志望度の高い企業から内定がほしい。 <理系男子>
- 志望業界を絞り込むことができたので、ここからは志望する業界や企業の理解を深める。 <文系女子>
- 早く就活を終えて学業に専念したい。 <理系女子>